

議 事 録

会議の名称	令和7年度 第1回 愛荘町総合教育会議
開催日時	令和7年6月25日(水) 午後2時00分～午後3時10分
開催場所	愛荘町役場本庁舎 3階 第2委員会室
出席者	<p>【構成員】7名 町長 有村 国知、副町長 杉本 甚治郎、教育長 徳田 寿 教育長職務代理者 森 秀昭 教育委員 黒川 泰守、木津 知里、森野 啓子</p> <p>【事務局】9名 教育次長 陌間 秀介 学校教育担当課長 西澤 仁志 生涯学習課課長 水谷 徹也 愛知川公民館長 本田 有弘 図書館館長 三浦 寛二 歴史文化博物館長 下村今日子 給食センター所長 中村 誠司 教育振興課長補佐 橋本 庸介 教育振興課長補佐 久保川美晴</p> <p>【傍聴者】0名</p>
議事日程	協議・報告事項 ・「子どもの放課後の居場所について」 教育振興課 橋本庸介
議事録作成者	教育振興課 久保川 美晴
教育次長	午後2時00分開会 皆さんこんにちは。 ただいまから令和7年度第1回目となります愛荘町教育総合会議を開催いたします。 はじめに有村町長からご挨拶をお願いします。
町長	みなさん、こんにちは。今日は、令和7年度第1回愛荘町総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。 令和7年4月から新年度少しずつ体制も変わりながら、メンバーも変わりながらというところでございますが、教育長をはじめ、教育委員の皆さまとともに行政執行部と連携をしながら、首長職が会議を招集し、行政側の考えをお伝えさせていただくというのがこの総合会議であるといったところでございます。 新日鉄がUSスチールを子会社化するという大変大きなニュースがございました。その時の大きな存在として橋本会長がおられました。日本の大きな会社とは言え、一つの民間の事業者がアメリカの大統領であったり、健保組合であったりっていうのを裁判で訴えてでも、そのことは違うぞっ

<p>議長（有村町長）</p>	<p>本日は、「子どもの放課後の居場所について」をテーマとして、意見交換をしていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>では会議の運営につきましては、愛荘町総合教育会議設置要綱に基づいて進めてまいりたいと思います。</p> <p>早速ではございますが、設置要綱第4条によりまして、町長が議長になることから、会議の進行を有村町長にお願いしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは設置要綱に基づいて、議長を務めさせていただきたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p>次第の3 議題「子どもの放課後の居場所について」にかかる意見交換です。それでは意見交換に先立ちまして、教育振興課より説明をしていただきます。よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>教育振興課 課長補佐</p>	<p>—資料に基づき説明— (説明要約)</p> <p>町教育委員会では、昨年度から検討の場を数回重ね、愛荘町教育大綱・第3期教育振興基本計画を策定。本年6月からその運用を開始。令和4年4月から「未来を拓く、愛荘16年教育」をスタート。中学校卒業段階のめざす子どもの姿を「主体的・自律的な学び、探究的な学びができる子ども」としている。学校との綿密な連携のもと、自分で考え判断し、行動していきける自律型人材に育成並びに自己調整力を高める取り組みを進めている。</p> <p>その一つとして、小学校における40分授業午前5時間制を導入、実践。各児童が目標に合う学習プラン、学習内容を柔軟に計画に移し、実行に移していくことにチャレンジしている。</p> <p>小学校における40分授業午前5時間制の導入は、R6 秦荘西小学校を文科省の指定研究開発学校としてスタート。R7 秦荘東小学校に拡大、R8には愛知川地域を含め、町内全小学校で実施予定。</p> <p>1単位時間を45分から40分に短縮。午前を基礎的基本的な知識技能の継続を図る学びの時間。午後を主体的・対話的で深い学びの充実を目指す活動の午後と位置づけ。40分授業で生み出した時間を①学習の自己調整力の育成②生活の自己調整力の育成③自治活動④探究学習⑤教員裁量の時間として活用。</p> <p>制度導入による考えられる課題が2つ。①学力の低下：授業時間が5分短い、午前に集中して授業に取り組み、先生方の授業工夫、短縮によって生み出された時間を活用し、自己選択学習に取り組んでおり、学力の低下は見られていない。②下校時刻の速さ。特に1年生は以前より早く下校する。各家庭においては、働き方の検討、就労時間調整等が必要となる。ラ</p>

	<p>イフスタイルの多様化に伴う社会課題もある。子どもたちの選択肢が広がる放課後の居場所の検討、放課後の充実が今後の重要なテーマになると考える。</p> <p>小学生の家庭における一般的な居場所を紹介。が、町の実態に応じた居場所の検討が必要。参考事例として放課後児童クラブ・放課後自習寺（愛荘町）・放課後子供教室事業・放課後学習塾・宿題カフェ等全国で展開されている事業を紹介。</p> <p>以上をふまえ、今年度子どもの放課後の居場所のあり方を検討予定。「これからの愛荘教育を考える円卓会議」を活用し検討・予算化。R8 から学校で実践したい。</p> <p>①学校の空き教室を活用②学童との差別化を図るため開設は2時間以内程度。③学校時間外における自律型人材、自己調整力の育成の実践の場とするとともに、学校図書館の活用、子どもの大学で開発された探究学習、GIGAスクール構想による1人1台端末、AI型教材を活用し運営を検討。</p> <p>以上、令和8年度からの実践に向け、放課後の居場所のあり方について検討をしていく。子どもたち1人1人が自ら段取りをして、少しでも勉強に向かえる時間を確保していくこと、確保していける環境を作ることが必要。ライフスタイルの多様化から休日等の共働きの世帯の増加。年間を通じて子どもたちの多様な居場所を考えなければならない。7月11日第1回円卓会議開催。会議では、放課後の居場所だけでなく、休日や長期休業期間の居場所も含めて、様々なアイデアを聞き、子どもたちが安心感を得られる場所を検討していきたい。</p> <p>本日の育会議においては、円卓会議に先駆けて、教育委員の皆様を初め意見いただきたい。</p>
議長（有村町長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>説明にもありましたが、今後、この事業につきましては、別に設置しております「これからの愛荘の教育を考える円卓会議」において詳細を検討してまいります。</p> <p>本日はそれに先立ちまして、委員の皆さまから、それぞれのお立場から考える人材確保に向けたご意見、注意すべき事項、子どもたちが自己調整力や主体性を身につけるために必要だと考える取り組みや工夫などについて、ご意見や思いを頂戴したいと思います。</p> <p>首長職から副町長、教育委員へという順番になるかと思えます。よろしいでしょうか。</p>
議長（有村町長）	<p>私としましては、40分午前5時間制授業というところがございます。町内の保護者の方からもなかなかどうしたものか、帰りが早くなると調整が</p>

副町長	<p>難しいというお声は私の方にも届いています。</p> <p>学童とは少し違うというところで、非常に大切な取り組みで考えていく必要があるのかと考えております。</p> <p>実際の運用であったり、在り様であったりということに関してはそれぞれ知見をお持ちの方々のアイデアをいただきながら展開を行う必要があると思います。</p> <p>一方、首長職として私が思っている部分を申し上げさせていただきますと、それぞれ学校、地域によって、少しずつニーズや担っていただくサポートの方、ボランティアの方等、キャラクターが違うので、個性が出てくるのかなと思っています。教育に関する施策としてやっていくに際しては、皆さんにお取り組みいただくときには、哲学となるもの、みんなが拠って立つもの、共有する価値、何のためにこれをやっているのかということがぼやけないようにしていく必要があると思います。そうじゃないと目の前の言葉に合わせて対応するということになる、何のためにやっていたのかがわからなくなり、それは本末転倒だということになるので、最初の結論を見失わないようにしなければならぬと感じています。それができるとそこに参加する方々にも一つの価値で事業を展開していくことができるのかなと思っています。</p> <p>子どもたちの環境というのは、私自身が子育てをしてきた20年近く前と変わってきています。まして、自分が子どもの時、私の場合半世紀近く前に自分自身が子どもだったのですけれども、その頃はもう全く違ってきているなというふうに思います。私の子どもたちも含めて、20年ほど前までは、学校から帰ってきたら、宿題より先に近所の友達と遊びに行くというのが普通だったかなと。自転車に乗るようになってからは行動範囲が広がっていきましたので、毎日それなりに過ごせる場所があったのだろうなと思います。</p> <p>今回、テーマ・内容を聞いた時に、私としてはせっかく学校から早く帰れるのに、家庭の事情とかで子どもたちの居場所を考えないといけないような時代になってきたのだなというふうに感じたのが正直なところです。</p> <p>行政の立場から申し上げますと、愛荘町では、先ほど紹介されました40分授業午前5時間制という実証実験的な取り組みを行っているのですけれども、その結果、下校時間が早まる。秦荘西小学校で実験的な取り組みをしたことによって、全国に先駆けて、愛荘町は知ることができた。</p> <p>今日の会議において、放課後をどうしていくのかということを議論していただくのですが、先ほど紹介してもらった事例でもあるように、負担金を取らない、無償でやっていくと事業が紹介されましたが、お金・人がかかる事業になってくるかなと思います。</p>
-----	---

黒川委員

今回、議論いただく内容や愛荘町における取り組み結果というのを踏まえて、今後、40分授業午前5時間制が全国展開されるにあたっては愛荘町からの発信情報で、国に対して、下校時間が早まる事によって、子どもの居場所作りっていうのには地方行政と地域住民への負担が増えるという実情をしっかりと報告していく必要があると考えます。その対策として地域が必要とすることに対して、国の支援、特に国による財政支援というのが不可欠だということもしっかりと国に報告し求めていく必要があるのだらうなと思っております。

このお題をもらった時に、私たちが小学生の時は、こんなこと考えたこともありませんでした。私は学校から帰ってきたら、とりあえずランドセルを置いて、遊びに行って、お腹減るまで遊んで、日が暮れかけたら、お家に帰ってお母さんのご飯食べて、その頃は7時ぐらいにはアニメがどのチャンネルも毎週流れていて、それを見て、8時ぐらいからはバラエティーを見て、お風呂入って、宿題忘れながら寝るぐらいの勢いでした。今の子はそういうことを考えなあかんっていうのもありますし、保護者がおられない、仕事行っているとかそういうこともあると思うので、やはりサポートは必要かなと思いました。綿谷さんの活動を見させてもらったら、すごくいいなと思いました。うちの同世代のパートさんにも見てもらいました。秦荘方面でもやっていただければありがたいなとおっしゃっていました。

お母さんとかも内職している人もおられます。やはり収入も欲しいと思うのですよね。そのときに、綿谷さんの事業に乗っかるわけではないですけども、お母さんもやっぱり自分の子どものことを見ていたいとは思っていると思うので、このボランティアスタッフとしてお母さん1人2人が来てくれれば自分の子ども見られるなと思いました。ボランティアに出るということは、晩御飯の時間とか、晩御飯を作る時間がなくなり、そうゆう時間を犠牲にすることがあると思うので、そういうところをまた町なり何なりがサポートしてあげればと思います。私ができることは仕事のというか、料理は作れるのでそれをたくさん作って、お母さんがボランティアしてくれた時間、料理屋さんなり何なりが晩御飯、例えばおでんとかをお鍋持ってきてくれたら、夜ご飯として持って帰ってもらえるという、対価ではないけど、それだったら子どもいるしそういう考えもあるのではないかなと私は思いました。

でも、結局、教育は、他人に見てもらうよりも、自分の子どもや子どもの友達を見ながら、成長してもらおうというかお互い成長することが一番やと思うので、家族共々成長してほしいなと思いました。

木津委員

自分のお寺でも土曜学校と習字教室をやっていて、その子たちを見ると、後で遊べるから、その前のお勤めとか勉強とかを頑張るという感じがあります。居場所作りをするときに、例えばその建物だけを用意して、もう目の前すぐ道とかだと、遊ぶところ必要な、子どもはやはり体を動かして遊ぶのが良いかなと思うので、学校の建物を使わせてもらえるならそれが一番いいのかなと思うのですが、建物があります、その中にいましょうねというのは、色んなプログラムを用意したとしても、ここにいてねっていうのって結構子どもにはストレスなのかな、それが1回なら楽しいと思うかもしれないですけど、毎日そこに詰め込まれているみたいな感じは、もしかしたら中学生とかになるとお喋りしているだけでも楽しいってなるかもしれないけど、小学生にはちょっと物足りないかなと思ったりも感じています。

以前、小学校の雨の日とかに、一定のお家に子どもたちが集まってしまうということがありました。自分の家にお母さんたちがいないので、家にお母さんがいる子の家に毎日子どもたちが集まってしまうと、そこのお家はすごく負担を感じてしまうので、学校の体育館とかを開けられないですかと先生に伺ったこともあります。そうするとその先生が見てないといけなくなるので、それはできませんというお話がありました。それも保護者の中で例えば管理人として手を挙げてくれた人がいてくれたら開けるとか、大阪の私の妹の子どもが通っている小学校は、校庭も全部オートロックで閉まってしまうので、保護者の方がボランティアで手を挙げた日だけ開放する。ボール遊びができる公園がないので、その曜日だけ子どもは行列ができるらしいです。野球がしたいサッカーがしたいっていう子は、大阪の小学校は行列待ちでオープン待ちというぐらい小学校の放課後って遊ぶ場所がない。

その辺も豊国ク라운ドは遊んでおられますけど、他にボールが使える思いっきり野球ができたりする場所が子どもたちにはなくて、うちのお寺のそんなに大きくない境内でも思いっきり蹴って遊んでいるので、車とかポコポコ当てられているのですが、子どもたちは遠慮があんまりないので、それを普通のお家でされると、みんな嫌がって「来ないで」って言われるのだと思うのですけど。さっき黒川委員がおっしゃってくださった、親が子どもたちを見ると、やっぱりご飯が作れないとか、こういう後の弊害も出てくるので、そういう親のサポートも一緒に合わせて考えていただけるともしかしたらもっと子どもに使う時間が増えるのかなと思います。

ただ、以前こういうお話をしたら、親を甘やかしてどうするのだったっていうことを言われたこともあって、でも親を甘やかしたらあかんのかなと嘗ていうことも少し感じて。町全体を一つの家族として見てもいいのではないかなと思うこともあります。その家庭でその子どもを面倒見なさいって

森野委員

いうのじゃなくて、お母さんのこともみんなで見ると、お父さんのこともみんなで見たらどうかなと感じたこともあったので。その辺の答えはまだ私も出せてないのですけれど。そういうことを感じました。

あと、公のものにしてしまうと、例えば悪いことや駄目なことをしても、出禁に出来ないのではないかなと思うこともあります。民間だと「そういうことをする子は来ないでください」ってはっきり書いているところもあります。中学生とかはどうしても甘えてしまう、公のものだとどうせ僕らを排除できないだろうと変に賢いところがあって、それが民間だと、「あなたたちは駄目です」ってはっきり言える。それも大事なのかなと思ったりもします。

その辺もまだ私の中で答えが出てないですが、全ての子を受け入れるというところももちろん大事だけど、それをすると社会では駄目って言われるっていうのを突き付けられるということも一つの勉強なのかなと思ったりもして、モヤモヤしたところです。

皆さんの意見を聞かしてもらって、私も同じようなことです。

ただ、ボランティアの方が本当にいてくださるのか。何人ほどいてくださるのか。

それと今、秦荘西小学校では始まっていますけれども、今、秦荘西小学校の子たちはどんな風に過ごされているのかなって。そのところがはっきりわかっていると、いいところはそこを真似して行って、改善しないといけないところは改善していく。とか、今後、愛知川学区もされることになるのですけれども、アンケートを取られて、一体保護者の方はどんな風に受け入れられているのか。子どもが放課後、どういう風にして欲しいのかというアンケートもあれば、またそれによってやっていけるのではないかな、考えられるのではないかなって思っています。

それと、あの副町長が言っておられたように、やはりボランティアはボランティアなのですけれども、お金、アルバイトとしてならやるわっていう方もおられるのではないかな、そうするとそのお金は一体どこから出るのか、絶対お金っていうものは問題として出てくると思うので。ご飯を作るにしても他の仕事を休んででもボランティアをしてくださるのは嬉しいことなのですから、ただボランティアだけでいいのかなって思うところもあります。

子どもの居場所ということになると、今、私は学習塾をさせてもらっていますが、春休みとか冬休みとか夏休みとか、家にいる子たちは私の教室は2時から開いているのですけれども、1時半に来る子がいます。

まだ掃除しているというくらいの時に来て、「ちょっと待っていてね」と言うと、「その30分本読んで待っているわ」って言ってくれます。それ

森委員	<p>は自分から一生懸命考えて、本を読もうと、その時間は自分にとっての読書の時間だと決めたと思うのです。私が読みなさいって言っているわけでもなく、自分で決めて、本を読んで待っていてくれます。</p> <p>だから、そういう子たちに、1人でも多くなってくれるといいなって思ったときに、小学校の図書室でも何か開放していただいたら、どんな風になのかわかりませんが、愛荘町は読書に力を入れておられるし、本が好きなのは本を読むってできると思います。私は今、愛知川小学校に歌を歌いに行っているのですけれども、音楽室が貸していただけるかどうかかわかりませんが、歌の好きな子は、何曜日は歌をやっているからみんなが集まろう。曜日によって、サッカー教室であったり、例えば運動が嫌いな子は将棋クラブがあってもいいかなと思ったり、落ち着いて物事を考えられるという場所があってもいいのかなと思いました。</p> <p>色々夢を語ったらいっぱいやってみたいことはあるのですが、さてはて、それを誰がうまくまとめていくか、というのが一番の問題になるかなって思います。</p> <p>いろいろな取り組みがたくさんあって、果たしてどれが一番正しいのか、正しいというのではないと思うのですが、どれが一番いいのか、子どもの要求をまず考えていくのか、親の要求を考えるのか、学校の要求で進むのか、それぞれの立場によって変わってきます。</p> <p>僕が秦荘西小学校にいたときに、学童が始まりました。その場所は体育館の2階の方で準備室とか色々ありますので、町の方をお願いをして、体育館の会議室にエアコンとかそういうのは入れてもらって学童として使えるようにしました。</p> <p>そのときは、我々学校にいる範囲であるならば、運動場を使ってください、体育館を使ってくださいっていうので、我々もたまに覗きに行っていました。学校規模から考えると、秦荘西小学校もどんどん学童の利用者が増えていきます。新しい住宅地の方々もおられ、共働きの方も多くて、スペース的に足りないということで、今度はランチルームがなくなったから、調理室を改修して学童をしていましたが、管理者としては、管理が難しい。学校を使っている以上、学校にも連絡が入ってきます。建物だけ使ってもらって、運営から設備的なものも含めて全て学童の活動としてやっていただく場合は、直接、学校の教員としては関わることはないのですが。もう一つ、学童の開設時間に、学童の指導員の方が職員室に来られて、〇〇先生おられますかと尋ねて来れ、担任は仕事を中断して、学童の方に行かなくてはならないことがありました。学童といっても、学校と一緒にやっている以上、必ずどっかですが、教員も動かなければならない。本当に学童として学校としていいのかなということを考えてことがあります。</p>
-----	--

	<p>民間学童の場合は向こうが責任持ってやられますので、これはありがたいなと思います。</p> <p>そして、やはり学童の指導員の方も、人数不足になっています。どんどんその辺も難しい。</p> <p>こども家庭庁とか教育委員会関係のルールについて、子どもと放課後教室がどんな形でできるのかというと色々見ておりました。色んな形があって、お金がかかるなあと感じました。行政だけのお金で実施するのか、保護者に負担していただくか、この辺も大きな問題です。</p> <p>また、都会と言える地域だと、ある程度ボランティアとして来てくださる方もあると思いますし、ボランティアだし少し補助しますよというところもあります。</p> <p>ただ、愛荘町ではどこまでやっていけるのか。田舎の場合、どうしてもボランティアといってもおじいちゃんおばあちゃんがほとんどです。どこまで関わっていただけるのか。中学校の放課後の指導に元教員が行ったりしているのですがやっぱり人数不足です。良い人が足りなくて困っている。</p> <p>本当にうちの町としてどこまで必要なのか、何が 필요한のか、そして、実施した場合どこまで子どもが来てくれるかという所も非常に大きな課題だろうと思います。</p> <p>皆さんのお話をもっともっと聞かせてもらえるといいかなということをおもっています。</p>
議長（有村町長）	<p>最後、教育長よろしくお願いします。</p>
教育長	<p>最初に町長がご挨拶いただいた中で、橋本会長の話がありましたけど、舞台は違うけれども、ああいう方を自律型人材というのではないかというふうには私は思っています。</p> <p>つまり、その揺るぎない決意を持って粘り強く事に当る。そして、切り開くということですので、回り道を探すばかりではなく、それを突破するというものを見つけていく。今、求められているのが、そういう人物像ではないかなという風に思っています。</p> <p>もちろん数値で測れる認知能力も大事ですけども、この混沌とした時代を生きていくためには、しかも地球規模で色んなところへ勝負しに行かなければならない。そんな状況に置いては、自分としっかり向き合って、自分を鍛錬しなければならない。自分でも鍛錬する、鍛えてもらうのではなくて、自分自身自ら鍛えるというそういう部分は少なからず必要なのかなと思っています。</p> <p>そういうことから、今、私どもで放課後の受け皿ってということで町長の</p>

議長（有村町長）	<p>言われる、ブレてはいけない哲学は何なのかを考えたときに、これまで例えば、週休2日制にあたっては、それこそ社会の受け皿が必要というふうにいわれました。そういう受け皿とは一線を画するような受け皿がいるというふうに思っています。</p> <p>つまり、大人がお膳立てをして、至れり尽くせりの中で子どもが過ごさせてもらう、居心地心地よく過ごさせてもらう、という場ではないのではないかとこのように思っています。</p> <p>自分で選択したり、決定したり、時には自分の責任において、自分で決めたのだから最後までやらなあかんでしょみたいな少しストレスがかかるようなそういう自分への跳ね返りもあるということも含めての居場所じゃないかなと思っています。</p> <p>その居場所で楽しければ一番いいのですけれども、鍛えながら、後々味わった中、噛み締めるような喜びを味わえる、理想ばかり言っておりますが、そういうきっかけを作る場だと私は考えています。</p> <p>今、本町の子どもたち、決して能力が低いのではなくて、やはり自分で何かを見出して学ぶということが出来ていないことが数字的にはなかなか出て現れない、それが、大きな原因ではないかなというふうに思っています。</p> <p>こちらの資料で言えば3ページです。枠内にあります。その①から④のそういう時間を使って、学校には40分授業午前5時間制の中でも生み出した力で、こういう部分をきっちり拾う。そしてそれに加えて、全員ではありませんけれども、選んだ子どもたちがさらにそれを活かして自分自身がさらに、考えざる場面で主体的に学んでいくという風に、放課後の時間ができればなというふうに思っております。</p> <p>木津委員もおっしゃっていましたが、公だと甘えがあるという話もありました。ですからまだ詰めてはいませんが、主体的に学ぶ気がない子どもさんは、「ここは少し違います」ということは大きなコンセプトとして、持っていなければならないかなと思っています。</p> <p>森野委員がおっしゃるように、自分で何をしようかということが、やっぱり選択決定できる子になる、そしたら、1人になった家庭でも、応用が利くのじゃないかなと、私の中では理想型として考えているところでございます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それぞれ委員の皆様、副町長、教育長のご意見、本当に、有意義なご意見をいただけたと感じております。運営に対する様々注意すべきポイントに関して、いろいろいただければなというふうに思いますし、ただボランティアのみにとこのことがらでない部分も率直にお聞かせいただければ</p>
----------	--

	<p>した。</p> <p>今後、開催をしてみまいます円卓会議におきまして、十分に検討し、教育の施策に反映させていただきたいと思っております。また、第2回の総合教育会議で進捗状況等をふまえて説明させていただければと思っております。</p> <p>以上で、本日の協議事項は全て終了しましたので、以後の進行につきましては、事務局でお願いします。</p>
教育次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは閉会のあいさつを教育長よろしくをお願いします。</p>
教育長	<p>町長、副町長、あるいは教育委員の皆さんから今日はかなりテーマを絞った形でのご意見を頂戴しました。</p> <p>人生100年、あるいはこれから本当に自立していないと地域も廃れていくということを考えると、人頼みの人材がたくさん増えても困りますし、誰かの指示を待たないと動けない、そういう人でも困るわけでそういう意味でこの午前5時間制が全ての解決をするツールでは、全くございませんけれども、やっぱり子供たちが本当にたくましく生き抜いていける力。そのためには、自立して生きる力をやっぱり身につけていくことが、人生100年を豊かに生きることにも繋がるということで、そのあたりはぶれずにまた皆さんと協議をさせていただきながら、局内でも、あるいは全庁あげてももちろん学校の現場も含めて、取り組んでまいりたいというふうに思っております。今後ともぜひいろんなご意見をご自由に、また幅広くいただきたいというふうにありますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。</p>
教育次長	<p>以上で、令和7年度第1回の愛荘町総合教育会議を終了します。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p>午後3時10分 閉会</p>